

2019-7-5

遺伝子組換えミラクリントマトの栽培試験の様子

生育特性調査等のため、組換えトマトと非組換えトマトは2019年4月8日に隔離ほ場に設置したビニールハウス内に搬入、定植しました。4月～6月には、これらのトマトについて、葉の大きさ、花粉の大きさ、花粉稔性、花粉数、果実の大きさ、重さ、種子数、訪花昆虫相などの調査を行いました。栽培はほぼ終了となり、今後は栽培土壌および植物片を使用して、有害物質産生性および土壌微生物相の調査を実施する予定です。なお、昨年秋から生育特性調査のために測定していた組換えトマトと非組換えトマトは、2018年12月26日に問題なく栽培を終了しました。

1. 形態および生育特性に関する調査

目的：組換えトマトと非組換えトマトの花の形態、花色等に関する調査および植物体の形態や生育特性に関する調査の他、訪花昆虫相、有害物質産生性についても比較調査する。

材料：ミラクリン産生トマト（5B）と宿主である非組換えトマト（品種 Moneymaker）。

栽培方法：2019年4月8日、遺伝子実験センター内の栽培室で約1カ月育苗した苗を密閉容器に入れて隔離ほ場Ⅳに設置したビニールハウス内に搬入した。苗を6Lポットに移植し、栽培を開始した（図）。適宜灌水。1週間に1回程度、液肥で施肥。

調査項目：花色の安定性、花序の数、花序の型、葉の大きさ、花の大きさ、果実の形、果実重、花粉充実度、花粉稔性、生育特性（草勢など）等



図. ビニールハウスでの栽培の様子

左上：撮影日4月15日

右上：撮影日5月27日

左下：撮影日6月25日